

「鎌倉街道上道と大蔵の中世遺跡を訪ねる」

令和8年5月22日（金）
嵐山史跡の博物館

概要

菅谷館跡が所在する嵐山町菅谷から都幾川をはさんだ対岸の大蔵には、多くの中世遺跡が残っています。大蔵には鎌倉街道上道が通っていたとされており、街道が都幾川と交差する渡河点には、大蔵宿があったと考えられます。

今回の文化財めぐりは、大蔵の中世遺跡をめぐりながら、これらの中世遺跡と街道や中世の宿との関係について考えます。

タイムスケジュール

(10:30 集合) 嵐山史跡の博物館 ⇒ 菅谷館跡 ⇒ 山王古墳群・鎌倉街道碑
⇒ 行司免遺跡 ⇒ 都幾川河川敷（昼食・休憩）⇒ 向徳寺 ⇒ 大蔵館跡
⇒ 源義賢墓⇒ 宮ノ裏遺跡 ⇒ 菅谷館跡 ⇒ 嵐山史跡の博物館（15:00 解散）

嵐山町大蔵周辺の地理的特徴

大蔵地区は嵐山町南部に位置し、入間川水系都幾川と槻川の合流点から下流約1.5kmまでの都幾川南岸の河川低地に当たります。都幾川北岸は菅谷地区に隣接し、南側は岩殿丘陵になります。鎌倉街道上道は丘陵部から南北に延び、河岸段丘上を通過して、都幾川を渡って菅谷地区へ貫けます。大蔵の中世遺跡は鎌倉街道上道が通る河岸段丘に立地しています。

主な遺跡や文化財

① 菅谷館跡 国指定史跡

本郭をはじめ5つの郭とそれらを囲む土塁と堀からなる戦国時代の城館跡です。長享2年（1488）に起こった関東管領山内上杉氏と扇谷上杉氏の対立による須賀谷原合戦に関係する城跡と考えられます。鎌倉時代には畠山重忠が居を構えたと伝えられています。鎌倉時代の歴史書といわれる「吾妻鏡」には、元久2年（1205）、「鎌倉に異変あり」との知らせを受けて、重忠は「菅谷館」から鎌倉に向かったとされています。

② 山王古墳群 嵐山町指定史跡

6世紀から7世紀にかけて造られた群集墳です。高さ約2mの円墳で、墳丘には緑泥石片岩が葺かれています。都幾川左岸の台地と対岸の河岸段丘上には、群集墳が広く点在しています。

③ 鎌倉街道碑

菅谷館跡西側に古くから鎌倉街道と伝承される掘割状道路遺構があります。遺構は都幾川に向かってゆるやかに傾斜する台地上に南北に延びています。昭

和 56・57 年度に県教育委員会による「歴史の道 鎌倉街道上道調査」において発掘調査が行われた結果、中世に構築されたと考えられる堀跡が発見されました。出土遺物から 16 世紀以降に堀が埋没したと考えられています。

④ 行司免遺跡 嵐山町指定史跡

都幾川右岸の低位の河岸段丘面に立地する中世の集落跡です。発掘調査により、溝に区画された敷地に掘立柱建物、井戸が配置された集落が確認され、「市」があったと推定されています。集落は 12 世紀後半から 14 世紀前半までの約 200 年間継続したと考えられます。石組みの井戸跡が現地に保存され、発掘調査後にはほ場整備されたものの集落の立地した河岸段丘の地形がよく残っています。

⑤ 向徳寺

鎌倉時代創建の時宗寺院です。開山は清阿せいあ、寺は一時中絶しましたが、江戸時代前期に向阿徳音こうあどくいんが中興したとされます。寺宝の銅造阿弥陀如来及両脇侍像（国指定重要文化財）は、阿弥陀如来、両脇侍（観音菩薩・勢至菩薩）の善光寺式で、台座銘には、「武州小代奉 治鑄檀那父栄尊 母西阿息西文 宝治三年己酉二月八日」とあることから、宝治 3 年（1249）に児玉党小代氏が奉納した可能性があります。

境内には鎌倉時代から南北朝・室町時代にかけて造立された板碑群（嵐山町指定文化財）があり、時宗で唱えられる「南無阿弥陀仏」（六字名号）や種子（梵字）が刻まれています。

⑥ 大蔵館跡 埼玉県指定史跡

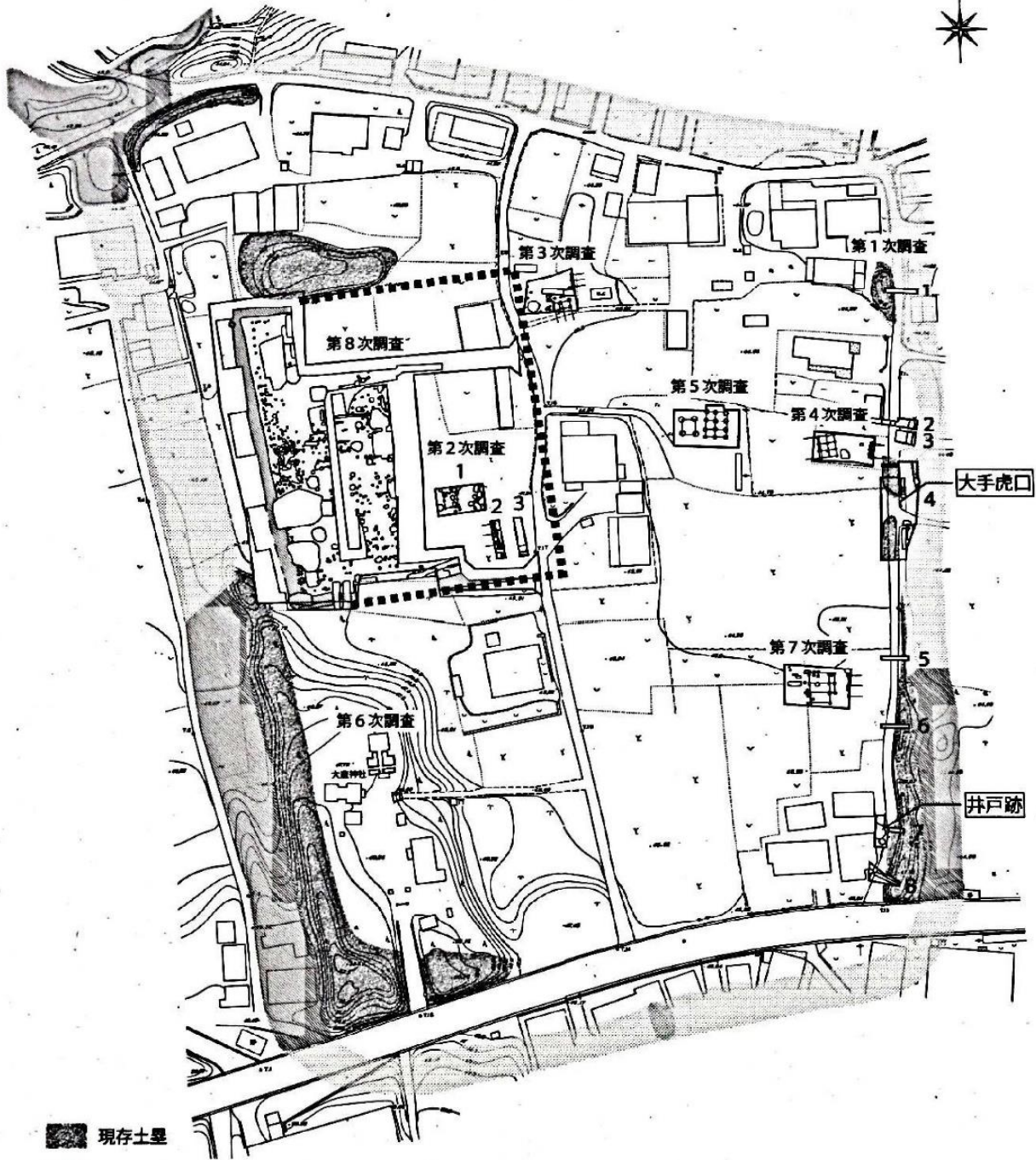
現在の大蔵神社周辺にあたります。東西 220m、南北 170m の規模を持ち、一部に土塁と堀が残っています。久寿 2 年（1155）大蔵合戦の舞台となった源義賢の館跡と考えられていましたが、これまでの 8 次にわたる発掘調査からは、この時代の遺構は発見されず、13 世紀から 14 世紀前半の掘立柱建物跡、井戸跡、溝が確認されており、現存する土塁や堀は 15 世紀以降のものと推定されています。

第 8 次調査では、幅約 2 m、深さ約 1.2m、一辺約 70m の方形に巡る区画溝が発見され、使用時期は 13 世紀から 14 世紀前半とされています。この方形区画溝を含め、城館成立以前の時代の空間利用について評価が待たれます。

⑦ 源義賢墓 埼玉県指定史跡

久寿 2 年（1155）大蔵合戦の際に、甥の源義平に討たれた源義賢（義仲の父）の墓と伝えられる五輪塔です。高さ 1.3m と大型のもので、凝灰岩製。火輪（屋根状の部材）、水輪（球形の部材）以外は後世の補填ですが、鎌倉時代後半の様式を伝えます。

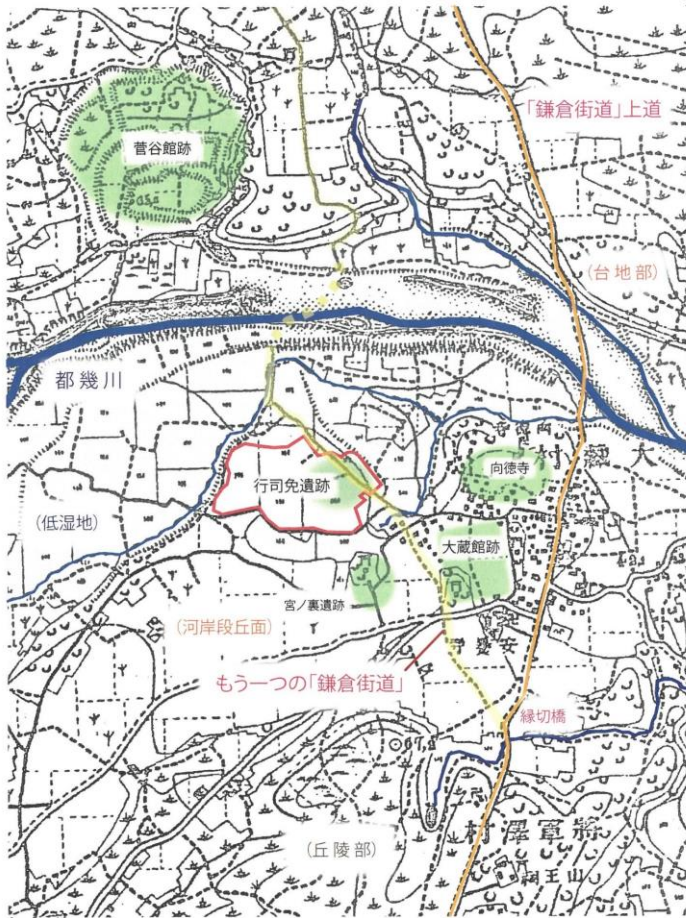
大蔵館跡全体図



-  現存土塁
-  現存堀跡
-  堀推定地



令和7年度企画展『東山道と「鎌倉街道」』展示図録より



大蔵宿(行司免遺跡)と「鎌倉街道」
(明治13～19年(1880～1886)迅速測図「菅谷村」より一部転載・加筆)

大蔵館跡の西側から行司免遺跡の中を通り、都幾川の対岸へ抜ける道は、縁切橋から分岐していたと考えられます。大蔵宿の集落(行司免遺跡)が存続していた14世紀頃までは、この道が「鎌倉街道」上道だったと考えられます。



行司免遺跡調査区(中世)
(1988嵐山町遺跡調査会より引用・加筆)

溝で区画されたそれぞれの空間に掘立柱建物跡、井戸跡を配置する集落構成は、苦林宿の集落(堂山下遺跡)に共通します。迅速測図の道を重ねると道の左右に集落が分かれ、区画溝が道に直交するように延びています。東側の集落は市の跡とされています。